

トップマネジメント講話		演習	講師 佐藤 康宏 准教授 伊藤 新	
科目カテゴリー	柔道整復師コースの必修科目	科目ナンバリング	12130202	

1. ゼミのねらい・概要

本科目は、前後期の30回の講義回数の中の15回(残り15回は教養ゼミを実施する)を使って行われる、全体ゼミ形式と指導担当教員によるゼミ別指導を組み合わせた通年科目である。前者では、6回にわたって、群馬、埼玉、その他近県の優良企業や各種組織を運営する経営トップなどを講師に招き、マネジメントの現場の「生の声」を拝聴する機会(トップマネジメント講話)が設けられている。そこから、実際の経済社会の実情を知ることにより、「実社会ではどんな問題があるのか」「その問題にどんな解決策があるのか」などを学ぶ。このような経験を通じて、学生が自らの学問領域(具体的には専門ゼミ、卒業研究のゼミなど)で「今、何を学ぶべきか」「何を考えるべきか」などを意識し、今後の学修意欲を高めることが期待される。後者では教養ゼミで行う確認テストの範囲で毎回課題資料を配布し重要なポイントを解説し、3年次・4年次の学修に役立つ基礎学力の涵養を目指す。

2. 授業の進め方

前後期の30回の中のいずれの回が本科目にあたり、いずれが教養ゼミの回となるかは、来校していただく講師のご都合等もあるので、別途指示する。トップマネジメント講話を含む全体ゼミの場合には、授業開始5分前までに指定の教室(全体ゼミ会場)に集合し、各自に指定された座席に着座して授業開始を待つこと。一方、ゼミ別指導の回については、教養ゼミで行っている確認テストで指定した範囲を解説する。

3. ゼミ計画

1. トップマネジメント講話の概要説明(全体ゼミ)	9. 学習支援講座④(前期まとめ)
2. 第1回 トップマネジメント講話(全体ゼミ)	10. 第5回 トップマネジメント講話(全体ゼミ)
3. 学習支援講座①(柔道整復学:総論, 頭部・体幹)	11. 学習支援講座⑤(柔道整復学:上肢)
4. 第2回 トップマネジメント講話(全体ゼミ)	12. 第6回 トップマネジメント講話(全体ゼミ)
5. 学習支援講座②(解剖学:血管系)	13. 学習支援講座⑥(解剖学:運動器系①)
6. 第3回 トップマネジメント講話(全体ゼミ)	14. 学習支援講座⑦(解剖学:運動器系②)
7. 学習支援講座③(解剖学:神経系)	15. トップマネジメント講話の総括指導

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

全体ゼミ分については、あらかじめ指示された下調べ(来校される講師が所属されている企業・団体の概要等)を行う。この準備学習には2時間以上が必要である。各講話後、次の講義までにレポートを作成する(約2時間程度)。学習支援講座はテキストの指定の範囲を学習し臨むこと(約2時間程度)。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

作成されたレポートに対しては、講評を行う方法などによってフィードバックを実施する。学習支援講座においては課題資料とテキストを参考に重要ポイントの解説を実施する。

6. ゼミにおける学修の到達目標

講話の内容について正確にメモをとり、指定された字数に見合った内容のレポートを作成することができる。加えて、国家試験で出題される主要科目(解剖学, 生理学, 柔道整復学)に関する基礎学力の向上も目指す。

7. 成績評価の方法・基準

トップマネジメントのレポートの評価(50%), 課題(50%)で評価する。

8. テキスト・参考文献

西川彰/小林直行 著, 解剖学ワークブック, 医歯薬出版

西川彰／小林直行 著，生理学ワークブック，医歯薬出版
小林直行 編，運動器疾患ワークブック，医歯薬出版
その他の参考資料は必要に応じて授業中に配布する。

9. 受講上の留意事項

確認テスト後は問題の解説を行うため，テキストおよび配布資料を必ず持参すること。
講義回数の3分の1以上を欠席した場合は不合格とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本ゼミは，接骨院での臨床経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。